

# 定期作況報告

(第5号 平成23年9月20日現在)  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

8月下旬：最高気温は平年より1.8℃高く、最低気温も平年より1.1℃高かった。降水量は平年より46.7mm少なく、平年対比9%であった。降水日数は平年より4日少なかった。日照時間は平年より15.6時間多く、平年対比132%であった。夏日（最高気温25℃以上）は9日、真夏日（最高気温30℃以上）は無かった。

9月上旬：最高気温は平年より2.5℃高く、最低気温も平年より2.8℃高かった。降水量は平年より151.2mm多く、平年対比389%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より14.6時間少なく、平年対比70%であった。夏日は7日、うち真夏日は1日であった。

9月中旬：最高気温は平年より0.3℃低く、最低気温は平年より1.9℃高かった。降水量は平年より46.5mm多く、平年対比239%であった。降水日数は平年より2日多かった。日照時間は平年より17.5時間少なく、平年対比66%であった。夏日は3日、真夏日は無かった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.3	24.5	1.8	26.2	23.7	2.5	21.7	22.0	▲ 0.3	24.7	23.4	1.3
最低気温(℃)	15.8	14.7	1.1	16.1	13.3	2.8	12.8	10.9	1.9	14.9	13.0	1.9
平均気温(℃)	20.5	19.3	1.2	20.6	18.2	2.4	16.7	16.1	0.6	19.3	17.9	1.4
降水量(mm)	4.5	51.2	▲ 46.7	203.5	52.3	151.2	80.0	33.5	46.5	288.0	137.0	151.0
降水日数(日)	1	5	▲ 4	8	5	3	6	4	2	15	14	1
日照時間(hr)	64.2	48.6	15.6	34.0	48.6	▲ 14.6	33.4	50.9	▲ 17.5	131.6	148.1	▲ 16.5

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

### 1) 水 稲 : 平年並

事由：8月下旬の好天により生育は進み登熟日数は平年並～4日短く、成熟期はほぼ平年並となった。㎡当たり穂数は平年対比「ほしのゆめ」が99%、「きらら397」が96%、「ななつぼし」は93%で平年並から少なかった。一穂粒数は平年対比「ほしのゆめ」は100%、「きらら397」も103%で平年並であったが、「ななつぼし」は92%で少なかった。その結果、㎡当たり粒数（㎡当たり穂数×一穂粒数）は平年対比「ほしのゆめ」は99%、「きらら397」が100%で平年並であったが、「ななつぼし」は86%で少なかった。稔実歩合はいずれの品種も平年より高く、平年対比103～104%であった。㎡当稔実粒数（㎡当たり粒数×稔実歩合）は平年対比「ほしのゆめ」は101%、「きらら397」は104%と平年並で、「ななつぼし」は90%で少なかった。登熟歩合は平年対比「ほしのゆめ」は105%で「きらら397」と「ななつぼし」は110%と平年より高かった。

以上、㎡当たり粒数は平年並～少ないが、稔実歩合、登熟歩合が高いことから、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名 苗	成熟期(月・日)			登熟日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ 成苗	9.06	9.04	2	45	45	0
きらら397 成苗	9.09	9.11	△2	46	50	△4
ななつぼし 成苗	9.08	9.09	△1	47	49	△2

注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) △印は平年に比べて「早」（成熟期）を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品種名 苗	㎡当たり穂数(本)				一穂粒数(粒)				㎡当たり粒数(×1000粒)			
	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ 成苗	726	736	▲10	99%	42.5	42.7	▲0.2	100%	30.9	31.3	▲0.4	99%
きらら397 成苗	663	690	▲27	96%	44.5	43.3	1.2	103%	29.5	29.6	▲0.1	100%
ななつぼし 成苗	615	664	▲49	93%	47.8	51.8	▲4.0	92%	29.4	34.3	▲4.9	86%

品種名 苗	稔実歩合(%)				㎡当稔実粒数(×1000粒)				登熟歩合(%)			
	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ 成苗	95.3	92.4	2.9	103%	29.4	29.0	0.4	101%	90.6	85.9	4.7	105%
きらら397 成苗	96.5	92.5	4.0	104%	28.5	27.4	1.1	104%	93.1	85.0	8.1	110%
ななつぼし 成苗	96.1	92.1	4.0	104%	28.3	31.6	▲3.3	90%	94.5	86.3	8.2	110%

注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。

2) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

3) 一穂粒数の平年値は、登熟調査および不稔調査を行った計11株の平均値を用いた。本年値は22株の平均値を用いた。

表4 出穂後経時登熟歩合

品種名	苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	30.8	15.8	15.0	73.7	63.6	10.1	87.4	(82.6)	4.8
きらら397	成苗	25.4	15.3	10.1	68.9	62.4	6.5	88.5	(80.0)	8.5
ななつぼし	成苗	21.8	14.9	6.9	69.0	58.3	10.7	91.8	(81.2)	10.6

- 注1) 平年値は平成16～22年7カ年のうち平成20年（最豊年）、平成21年（最凶年）を除いた5カ年の平均を用いた。  
 2) 出穂後40日目の平年値は平成16年のデータが欠測のため4カ年のみのデータから平均を算出しており参考扱いとする。  
 3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。  
 4) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦

昨年播種より、品種を「ホクシン」から「きたほなみ」へ変更した。「きたほなみ」の播種適期に合わせて、平年より5日遅い9月15日に播種を行った。

注) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

3) 春まき小麦： 不良

事由：千粒重、リットル重はほぼ平年並であった。成熟期の穂数は平年を上回り、穂長はほぼ平年並であったものの（既報）、播種後ほぼ1ヶ月間の低温により分けつ穂の生育が劣っていたことから、子実重は平年比77%と低収であった。

したがって、目下の作況は不良である。

表5 春まき小麦の収量

品種名	子実重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
春よ恋	363	470	▲107	77	100	▲23

品種名	千粒重 (g)			リットル重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
春よ恋	39.1	39.8	▲0.7	788	794	▲6

- 注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、22年を除く5か年の平均値。  
 2) ▲は平年より減を示す。  
 3) リットル重は1リットル升による測定。

4) 大豆 : やや不良

事由：開花後、高温に経過したことから、成熟期は平年より4日早い9月15日であった。主茎長は平年よりやや長く、主茎節数は少なく、分枝数はやや多く、着莢数は少なかった。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 成熟期の大豆の生育

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	9.15	9.19	△4	72.5	65.4	7.1	10.1	10.8	▲0.7

品種名	分枝数(本/株)			着莢数(個/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ユキホマレ	6.1	5.7	0.4	70	78	▲8

注1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

5) 小豆 : 平年並

事由：8月下旬は高温に経過したため、成熟期は平年より4日早かった。主茎長は平年を大きく下回ったが、主茎節数、分枝数はほぼ平年並であった。着莢数は平年を若干下回った。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 成熟期の小豆の生育

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモショウスズ	8.30	9.03	△4	56	70	▲14	14.2	13.6	0.6
しゅまり	8.30	9.03	△4	60	74	▲14	13.8	13.2	0.6

品種名	分枝数(本/株)			着莢数(莢/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモショウスズ	5.2	4.8	0.4	51	56	▲5
しゅまり	5.6	5.6	0.0	50	53	▲3

注1) 平年値は、前7か年中、平成16年、平成20年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： 不良

事由：生育は遅れていたが、夏期の高温と少雨により黄変が進み、枯凋期は平年並の9月3日であった。株当たり上いも数、上いも平均一個重とも平年を下回り、上いも収量、中以上いも収量および規格内収量は、いずれも平年の80%以下と低収であった。でん粉価は、ほぼ平年並であった。

したがって、目下の作況は不良である。

表8 枯凋期のばれいしょの生育、収量

品種名	枯凋期 (月日)			上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	9.03	9.03	0	11.1	13.0	▲1.9	84	94	▲10

品種名	上いも収量(kg/10a)			中以上いも収量(kg/10a)			規格内収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	4141	5401	▲1260	3422	4609	▲1187	3398	4349	▲951

品種名	でん粉価(%)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	上いも	中以上	規格内
男爵いも	15.1	14.8	0.3	77	74	78

注1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内 (M~2L, 60~260g) の収量である。